令和元年度　第３回公立鳥取環境大学教育研究審議会　議事要旨(案)

○ 日　時　　令和２年２月４日（火）　１０：３０～１２：０５
○ 場　所　　大会議室（本部講義棟３階）
○ 出席者　江﨑信芳委員、宇佐美誠委員、尾室高志委員、片木威委員、田中仁成委員、
田村文男委員、山本仁志委員
今井正和委員、遠藤由美子委員、小林朋道委員、矢野順治委員、横山伸也委員、
吉永郁生委員、齊藤明紀委員、張漢賢委員　[15 名/15 名]

【議事】

１　前回議事要旨の確認
原案のとおり承認された。

２　協議事項
（１）令和２年度当初予算編成について
事務局から、令和２年度当初予算編成について説明があり、様々な意見が出たが、原案について概ね承認された。
＜主な意見等＞
・本学での環境マネジメント全国学生協議会開催支援について全国という規模の割に予算が少ない印象を持つ。もう少し開催のアピールができないのか。また、事前準備の段階からプレスリリースを行った方が関心を持っていただけるのではないか。
→全国大会は環境マネジメントシステムを学生が運営している１１大学が開催しており、基本自主運営で開催されている。本学開催の場合、交通の便が良くないため、シャトルバスを運行する。また、大学の PR を兼ねてノベルティグッズを作成する。
・FM 鳥取、YouTube を活用することは賛成である。地上波と比べて安価な県内のケーブルテレビを活用してはいかがか。
→ぜひ検討したい。
・SDGｓに関係することは幅広く、どのゼミの活動でも関連付けることができるのではないか。SDGｓと結び付けた活動を積極的に行うことで地域との連携につなげていくことができるのではないか。
・アクティブラーニング環境整備に関連し、学内の ICT はどのような状況なのか。
→開学以来、学生は必携パソコンを持っている。講義室には無線 LAN、情報コンセントを設置している。
・国の就学支援制度の対象とならない学生（院生）の授業料減免について、国の新制度では私費留学生を対象としていないが、学部の私費留学生の支援はどのように対応する予定か。
→今回の新制度に対象とならなくなった学生の経過措置分として予算計上している。最終的には国の制度に収斂させていく予定である。

３　審議事項
（１）収容定員に係る学則変更等について
事務局から、収容定員に係る学則変更等について説明があり、原案のとおり承認された。
＜主な意見等＞
・副専攻について１つの科目のクラス数はどのようにするのか。

→講義室のキャパシティがまだあるため、クラス分けについては考えられにくい。また、既存の授業を精査し、共有できるものは共有する予定である。英語、データサイエンスは科目数が増える予定。

（２）令和３（２０２１）年度公立鳥取環境大学入学者選抜（学部）について

事務局から、令和３（２０２１）年度公立鳥取環境大学入学者選抜（学部）について説明があり、原案のとおり承認された。

＜主な意見等＞

・学校推薦型選抜では出願資格に高校での成績基準なしとなっているが、どのように受験生を評価するのか。

→現行の試験でも高校の成績は点数化しておらず、本学独自の試験の成績を重視している。

・推薦で入学した学生について入学後に成績は伸びているのか。

→推薦で入学する人数が少ないため、統計的データは取っていないが、どの入試でも成績の伸びに差はみられない。

・学校推薦型選抜Ⅲ型の選抜方法はプレゼンテーションとなっているが、実際に試験官の前で行うのか。

→スライド等を用いてプレゼンテーションを行い、その後面接を行う予定。

４　報告事項

（１）公立大学法人公立鳥取環境大学業務方法書の改正について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学業務方法書の改正について報告があった。

（２）令和元年度補正予算（第３回）案について

事務局から、令和元年度補正予算（第３回）案について報告があった。

（３）関西オフィスの移転について

事務局から、関西オフィスの移転について報告があった。

（４）近況報告

事務局から、入試、就職活動など大学の近況について報告があった。

５　閉　会